



The JEC Times

Special Edition Report on the Spring Program at Lincoln University, New Zealand!



NARA, 25 APRIL 2014

2014年2月20日から3月21日までの1か月間、ニュージーランド南島中部クライストチャーチ市にあるリンカーン大学で海外研修を実施し、本学学生26名が参加しました。英語でのコミュニケーションや異国・異文化体験、現地の人々との交流を経て、参加学生には様々な学びがあったようです。自らの将来設計、気付いたこと、新たに考え始めたことなどについてのレポートが届いたので、ここに報告します。研修に参加した学生の生の声をどうぞ！



ENGLISH LESSONS



paraphrase (言い換え)、
summary (要約)、
research skill (研究スキル) などの英語圏の大学で必要なスタディースキルの学習を通して、「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」ことを体験した1か月でした。

「回数を重ねるごとに、短時間で長い文章を書くことができたり、英語で深い内容や、自分の論じたいことを書くことができるようになった。その他の課題でも、課題をきちんとこなすと、一つの課題に、文法を学ぶ要素、ライティングを学ぶ要素などのたくさんの要素が含まれていて、課題をこなすにつれて力が付いていっているということを実感することができた。」
「予測しながら聞くようになり、聞き取りやすくなった。」

多文化・多国籍なクラスでの授業は、難しいながらも、有意義な時間となりました。日本で新聞・ニュース等を通して間接的に知るのとは異なり、その国から来た人達から直接意見・体験を聞くことで、視野の拡大へと繋がったようです。

「クラスにはさまざまな国出身の人がいたため、自分には思い浮かばないような意見が出てきて、面白かった。」
「外国の生徒と英語でひたすら討論するのはとてもハードであったが、他国の文化的側面や政治的側面とそれに対する国民の声が聞けて興味深かった(例えばエジプト人の生徒とジェンダーについて話したり、中国人の生徒と検閲について話したり)・・・。」

また、グローバル・イングリッシュとその重要性・有用性を生で体験する機会にもなりました。

「英語がコミュニケーションにおいて重要であるという日本では得辛い『実感』を初めて得ました。」
「世界の人と交流するために英語がいかに大切であるかを身をもって実感した。」

義務としての英語学習から、自らに必要な言語習得へと、認識の転換が起こりました。

「英語が日本語と同じコミュニケーション手段であることを、英語を学んできた8年間で初めて実感しました。」

コミュニケーション行為そのものについても、発見がありました。

「ジェスチャーや表情を交えることで、さらに表現力もついたのではないかと思います。」
「一か月間生活をする中で、つたない間違った英語でも伝えることができる、伝えようとする気持ちが大切であると感じた。」



「英語が話せるというのも大事だけど、それ以上に相手と話そうとする気持ちが大事だと感じました。」

そこには、自分を見つめ返し質問を投げかける聴き手のいる、双方向のコミュニケーションがありました。

「自分の片言の説明でも熱心に聞いて理解しようとしてくれ、[中略]伝えようとする姿勢があれば伝わるんだと実感した。」

英語でのコミュニケーションの楽しさにも気付きました。

「英語を使って海外の人と意思疎通を図ることがこんなに楽しいことだとは思っていなかった。」

「何よりも英語に対して以前より関心が持てるようになり、英語を勉強することが楽しいと感じるようになりました。」

SPECIAL PROGRAMS

本研修では、リンカーン大学正規課程の教員による特別授業を受講しました。今回は、「マオリ文化」「観光学」「カンタベリー地震とその影響」を題材に 6 コマの授業を受講しました。「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」という経験を通じて、更なる長期留学に興味をもつ学生が出てくることを期待しています。

「大学での講義のイメージが掴めたのでよかったです。」
「本場の授業を受けているようで、内容だけでなく雰囲気も楽しむことができました。特にマオリについての授業は日本では受けられないものなので、貴重な時間だったと思います。」

また 2 月 23 日は、現地の日本祭である「カンタベリージャパンデー」にブース出展するとともに、ステージパフォーマンスも披露しました。「カンタベリージャパンデー」は、クライストチャーチの復興を祈願して始まった日本祭です。私たちは、奈良の紹介および、クライストチャーチと東北の両被災地の橋渡しを目的に、采女祭り(奈良)、相馬野馬追(福島)、仙台七夕祭り(宮城)の紹介と、習字、折り紙、七夕飾りの体験を行いました。また、現代文化の紹介としてステージではソーラン節のパラパラバージョンを披露しました。



「実際に会場に行くまではどんな感じになるのかの想像もつかず不安でしたが、来場してくれた人たちに日本の文化を伝え、楽しんでもらえたと思います。私のグループでは折り紙の体験をしたのですが、細かい作業な上に、折り方を英語で外国人に伝えるというのはとても難しいことでした。しかしつたない英語でもたくさんの人が『楽しかった、ありがとう』と言ってくれ、自分も楽しむことが出来ました」

異国・異文化を経験し、他者の目を通しての日本像を知ること、自国・自文化を異なる観点から客観的に眺めることが可能になりました。

「日本の文化を見直すことも出来、今までとは違った視点で日本を見ることにも繋がった。」

「日本の文化に興味がある人がこれほどたくさんいるということが目に見える形で分かったことで、私自身も今まで以上に日本の文化に誇りを感じるようになりました。」

クライストチャーチでは震災の現場を訪れ、国境を越えて、痛みを共有しました。

「街の中心部では 3 年前に起こった震災の面影がまだ多く残っているのを目の当たりにし、震災のもたらす影響がいかに大きいのかを感じました。日本以外で大きな地震が起こった所を訪れるということも実際に震災の爪痕を見るということも初めての経験だったので、胸が痛くなりました。」

「同時期に起こった東日本大震災とともに、クライストチャーチ大地震についても忘れてはならないと感じた。」



NEW ZEALAND

海外が初めてという学生も多く、初めての異国・異文化体験は新鮮な驚きに満ちていました。

「NZには色々な国の人が住んでいて、母国語が英語でない色々な国の人も英語を通して会話できてよかった。」

「ニュージーランドでは、日本車が多く、道路も左側通行だったし、家電製品も日本のものが多く、親近感を感じた。それと同時に、世界がつながっているということをもっと感じた。一方、大学で、マオリ文化に触れる機会があったり、町でも、マオリ文化を大事にしていることを感じた時は、この独特の文化は、これからより国同士のつながりが増しても、受け継がれていくべき文化だと感じた。」

「[文化・生活習慣の]違いを感じることで、日本では当たり前としてある価値観や考え方を見直す機会となり、また、日本の利便化・高速化した社会と、NZの自然に溢れゆつくりとした社会の両方にそれぞれの良い点を見つけ出すことができ、日本とNZ双方が以前より好きになりました。」



RELATIONSHIPS WITH LOCAL PEOPLE

現地の方々との交流は、人間同士の心の遣り取りにおいて、国籍や習慣の違いがもたらす障壁が如何に取るに足らないものであるかを教えてくれました。

「ニュージーランドで一番記憶に残った体験は、ホームステイ先の家庭の家の鍵をバスの中に落としてしまったことです。ニュージーランドの方の優しさを一番感じた経験でした。」

ホームステイ先では、1カ月生活を共にする中で、家族になることができました。

「ホストマザーに、『この家にずっといてもいいよ。留学して、ここからリンカーン大学に通ったらいいじゃない』と言って

もらえたことが、一番嬉しかった。つたない英語しか話せなくても、自分ができる手伝いをしたり、家族に溶け込もうとしているのを感じてもらえたのだと思う。」

現地の地域コミュニティにおける人間関係の親密さは、人と会うことの喜びを改めて教えてくれました。

「人と人との心理的な距離が近いということが魅力的である。バスの中や、順番待ちの時など、誰とでも気楽に会話を楽しむオープンな雰囲気は日々の生活を楽しくさせた。」

「散歩をしていて近所の人に出くわすと、にっこり笑って『Hi!』と言ってくれ、日本ではあまりない光景なので文化の違いを感じるとともに嬉しかった。」

現地で出会った学生達とは、互いに興味を分かち合い、今後も続く友情を育むことが出来たようです。

「現地の大学の人と知り合いになり、日本に帰ってから連絡を取り合っている。」

THOUGHTS FOR THE FUTURE

「今まで詳しく進路について考えたことがあまりなくぼんやりとしか想像していませんでしたが、今回の研修で様々な国の人と将来について話す機会がたくさんあり、話をした人たちがしっかり将来を考えていると感じ、真剣に自分のこれからについて考えるようになりました。」

将来への目的意識を持って海外の大学で学ぶ留学生達との出会いは、自分の将来に真剣に向き合うきっかけを与えてくれました。

「ニュージーランドでは、大学卒業後でも他の大学に入り直して違う分野を勉強する人もたくさんいると聞き、大変興味深く、後悔をしないように生活しているのだなと感じた。そのため、私も自分が望むことを実現させることができるよう努力していかなければ、と思い直した。」

自分の望む将来を実現するためのやる気を得ました。国際的な仕事も視野に入ってきました。

「英語を話すことができれば、国内だけではなくもっと広い世界で働くことができるということに気が付き、国外への進学、就職についても視野に入れるようになりました。」
「理想ではなく現実として日本にとどまらず国際的なものの方により多くの外国人の方と勉強や仕事を共有したいと考えるに至りました。」



「何か人のためになることをしたい、[中略] 国際協力などの海外と関係のある仕事に就きたいと思っています。」

長期留学を目指すことを決めた学生もいます。

「今まで国内でゆったりと過ごしていたが、世界にはまだ私の知らない事がたくさんあり、たくさんの人々がいる。たくさん時間がある大学時代に自分の学びたいことを海外で勉強するというのも良いのかもしれない、と留学に興味があった。」

「以前から考えていた長期留学への希望がより高まりました。[中略] もっと長い時間をかけて現地の人と交流を深め、その文化に溶け込んだ生活がしたいです。[中略] さらに色んな人と出会ってより深い交流をし、さらに世界を広げたいです。これまで以上に語学の勉強に励んで、交換留学を狙いたいと考えています。」

REFLECTIONS

自分の変化を感じた研修でした。

「今まで何気なく過ごしてきた生活への自分の価値観にも変化があった。」
「試練の連続だったので精神的にも鍛えられた。」

外の世界に興味が出るとともに、母国への関心も高まりました。

「外国のニュースに興味を持つきっかけになった。」
「自分の日本についての知識などの乏しさを反省し、新聞や本も今まで以上に興味を持って読むようになった。」

異文化に触れ、これまでの自分を見つめ直すようになりました。物事への好奇心、観察力、思考力が深まりました。

「今回の研修で、『日本の学生は普段から物事に対する関心を深めていない』ということを感じた。クラスメイトと会話をしていると、彼らは自分の国の検閲についてや、暴力問題など様々なことを的確に説明し、それに対する自分の意見を付け加えることができている。一方で日本の学生は自分の意見を言うことができない。考えることができていないように感じた。[中略]いかに自分が普段から考えを深めていないか、ということを実感した。『良い』『悪い』で判断するのではなく、その後の『なぜなら・・・』が大切なのである。一つの方向からではなく多方面から物事を捉えることの重要性というものも理解できたように思う。」

行動に変化が起こり、新しい自分に出会いました。

「今まで育ってきた環境から離れ異文化を肌で感じることで、順応性が高まった。」
「今回の研修で、周りの人との関わりなど様々な事におい

て自ら行動することの大切さを改めて実感し、今までよりも積極的に取り組むことができるようになったと感じている。」

「日本にいるときの自分とは比べ物にならないほど積極的に動くことができました。自分の新しい一面を見つけたような気がします。」



☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

研修に行かれた皆さん、ニュージーランドで得た経験を基に、これからの学生生活、勉強に趣味に、精一杯楽しんでください！これから留学を目指す皆さん、語学に励む皆さんも、これらの体験談を参考にしてみてもいいでしょうか？

本留学プログラムは、今年度も実施します。募集説明会は、6月に実施する予定です。興味のある方は是非ご参加ください。

★SPECIAL THANKS★

カンタベリージャパンデー出展に際し、奈良市観光協会様(采女衣装貸出)、相馬野馬追執行委員会様(ポスター、パンフレットご提供)にご協力を賜りました。

この場を借りて御礼申し上げます。

奈良女子大学国際交流センターNews Letter 特別版

2014年4月発行 奈良女子大学国際交流センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

※平成 25 年度グローバル女性人材養成プログラムは、日本学生支援機構「海外留学支援制度（短期派遣）」採択事業です。